

# エネ研日本モデル分析についての要点説明

2009年3月27日  
内藤正久

## I. エネ研に与えられた役割の確認

- A) 日本について「実現可能」を検証する複数のシナリオ提示
- B) 必要条件
  - 1) 3Eのバランス
  - 2) 「国際的地位の確立」と「低炭素技術の振興」
  - 3) 「産業構造の尊重」と「財政規律」

## II. CO2削減可能量積上げの比較検討

(page番号は、パワーポイント資料「エネ研日本モデルによる分析結果」を参照)

- A) 「日本90年比 $\Delta 25\%$ 」(エネ起 $\Delta 23\%$ )ケースの評価 (page22-23)  
重化学工業など経済活動量の大幅削減＝日本経済の持続的成長阻害
- B) 「ストック・フロー対策強化」(90年比 $\Delta 16\%$ )ケースの分析結果の比較
  - 1) 再生可能エネルギー(太陽光 VS. 風力、小水力)
  - 2) 運輸・家庭部門(次世代自動車導入 VS. 貨物車自営転換、省エネナビ)
  - 3) 電源対応(原子力 VS. LNG火力(石炭火力の大幅減))
- C) 電源構成変更の可能性の検討 (page10-11)  
(ガス火力、バイオマス発電、太陽光発電、原子力、石炭・石油火力)

## III. 政策手段の考え方 (page 12-15)

- A) カーボン・プライシング
- B) 規制措置
- C) 財源の裏付けのある「支援措置」

## IV. 結論 (page 29)